

平成21年度 第2回芦屋市社会福祉審議会会議録(要旨)

日 時	平成22年2月19日(金)午後1時~午後3時
会 場	市役所北館2階会議室2
出席者	出席 会長 白石大介 委員 都筑省三, いとうまい, 渡辺宏子, 岡本威, 小笠原慶彰 委員 加納多恵子, 多田梢, 亀山昌也 欠席 委員 都村尚子 (敬称略) 事務局 磯森保健福祉部長, 藤原地域福祉課長, 西岡地域福祉課主査 中村こども課長, 水谷こども課(保育所担当課長), 和泉こども課主査
会議の公表	公開 非公開 部分公開
傍聴者数	なし

1 議 事

議題:「芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画」<後期>について

2 内 容

=開会=

白石会長: (挨拶) 今日は一時間くらいで終わりたいと思います。

藤原: (資料の確認)

白石会長: 事務局の方でのご説明をお願いします。

磯森: 2月6日に策定委員会を行いましたので、ご報告いたします。

中村:【芦屋市次世代育成支援対策推進行動計画(後期)の資料について説明】

続きまして、中間まとめからの主な変更点を説明いたします。パブリックコメントと愛称について説明いたします。

【民生文教常任委員会での中間まとめに関する主な意見等の説明 レジメ参照】

【パブリックコメントでの中間まとめに関する主な意見等の説明 レジメ参照】

次に策定委員会での意見により変更しました点についてご説明します。

策定委員会では「地域」という言葉がたくさん出て来ますが「地域」とは何をさしているか注釈などを入れるほうが良いという意見がでました。用語の使い方について、計画書の目次のP2の下に説明をいれています。また、計画書を見ていてどの章をみているのかわかりづらいということでしたので、それぞれのページ全てに章の名前とか基本目標とかを表記しています。以上が主な変更点です。

【次世代育成支援対策推進行動計画愛称募集の結果についての説明 レジメ参照】

いろいろ議論いただきました結果 8 番目の「子育て未来応援プラン『あしや』」に決定いたしましたので、計画書の表紙に記載させていただいております。

白石会長: わかりやすくご説明していただきましたが、何かご質問などありませんか？
第 1 回の社会福祉審議会で、いただいた皆様のご意見についてはどうですか。

中村: ご質問がかなりたくさんありましたので、回答についてはその場でさせていただきました。最後に委員長から食育に関するご意見をいただきましたけども、食育と健康増進に関しましては、今回この策定の中には含まれておりません。昨年の 7 月に食育増進計画を策定しておりますのでこの計画の中には反映されておりませんが所管課の方には伝えております。

白石会長: 前回にも申し上げましたが、今、食育の落とし穴として睡眠が非常に大事だと思います。文科省がこの 5 年、1000 万以上費やして阪神間の保護者・小・中学生・乳幼児・教育に携わっている教育者の方々を調査しました。
ところで、生活習慣というと中村さんは何を思い浮かべますか？

中村: 食べ物と睡眠だと思います。

白石会長: 調査結果を学校現場とか保護者にフィードバックしているのに、保護者にはうまく学校現場から伝わってない。もっと保護者にフィードバックしてほしい。というご意見がでていましたので、学校現場にはデータとして返しています。食育の落とし穴の影響があって、睡眠・食事・運動の 3 本立ての柱のなかで一番大切と考えている答えの 65% が食事、睡眠は 25%、運動遊びが 5% となっています。何万という方に調査をさせていただきました。芦屋市では調査をしませんでしたが、神戸・西宮を中心に調査したのですが、やはり睡眠教育というものを今後、子どもに向けて教えて行かないといけないが、中学校の先生などはあきらめています。思春期は育ちの時期なのでですからね。学校教育で保健科目で睡眠教育は必要なので入れていただきたい。医師会の方でも睡眠療法、日本で睡眠療法の学部があるのは滋賀医科大学だけなのです。滋賀医科大学の地元で睡眠教育に取り組み始めました。日本人は睡眠をおろそかにしすぎる。ともかくこどもの成長には睡眠が必要、特に脳の発達には睡眠が効果的。大人の平均睡眠時間は 7 時間が健康だというのがひとつの目安で多すぎてもいけない。ただ、個別にいいますとアインシュタインは 10 時間、ナポレオンは 4 時間なので一概には言えませんが、子どもは特に 10 時間くらい必要。乳幼児期のスタートラインでほぼ生活習慣がきまりますので、子ども自らができるわけがないので、やはり親自身が家庭でやらないと、それを幼稚園とか保育所とかにゆだねるというのはだめです。これ(後期計画書)をみせていただいてよくできていると思います。ただ睡眠

の事がほとんど書かれてなかった。少しそのへんが残念かなと。他に何かご質問はありますか。

磯森: P39の2番目にあるように「母とこどもの健康の確保と増進」ということで、別添の資料で「芦屋市健康増進・食育推進計画」ということでまとめております。その中で睡眠というのはあまり文章では取り上げていませんが、子どもの心の発達とか親とのふれあいとか書いてあると思います。

白石会長: 睡眠教育というのはこれから大きな課題になってくると思います。今日が最後（審議会）になりますので。

磯森: この計画の審議会はですが。

多田: 健康診断で若いお嬢さんのX線写真を撮るのですが、最近の女性は背骨が曲がっておられる方が多いですね。大人の曲がり方とは違うのです。その割合が多いので、これはなんとかしないといけないと思います。運動をしてないのかしすぎるのか、それとも、スマートにいたいために食べてないのか、食べるものを制限しているのかその辺はわかりませんが、小学校か中学校の卒業時にきちっと骨の写真を撮るようにしていただいた方がいいのではないかと思います。どのくらいの割合でとははっきりわかりませんが、写真を撮ってあまりの曲がり具合にびっくりする時があります。結構多いので、取り上げていただいて審議していただいた方が良いのではないかと。

白石会長: いろいろな審議会があるけど一本化して、それは検討します。教育の原点も福祉の原点も探っていくとひとつのところになるんですよ。Well Beingつまりは「よりよい生きかた」狭い意味での福祉は弱者救済ということで、それはそれではありますが、今は全国民が福祉の対象なのです。こどもの幸せに繋がる。今小学校で転倒骨折が増えていますし、脳卒中もこどもにでている。高次脳機能障害というのは今後、とても増えてくるのが予想できます。

都筑: 2日前のスポーツ振興審議会にたまたま教育委員長も来られていて、現在の芦屋の大きな問題は、小学生の体力が非常に低下している。兵庫県が低い、その中でも芦屋市が低いということをおっしゃっていただきました。学力の方はいいらしいですよ。芦屋の子どもをいかに健康に育てるには注意していかないことだと思います。

白石会長: 芦屋という地域性のこともありますがね、ここの審議会は一般論を話してもしようがない。今おっしゃっていただいたような裏づけがあるのならば、アメリカの話

で恐縮ですが、アメリカでは体育授業を増やしているらしく、芦屋も体育の時間を増やすと良いのでは。学力・学力といっても生活力がなければ維持できないですよ。学力が良いのは地域柄良いとして生活力がないとだめなのです。生活力を高めるには体力が必要なんです。

亀山: 計画評価委員会にはこれはどのように関わのでしょうか。

中村: 評価委員会には実行した後のことをかけますので、22年度までの実施状況をかけます。

亀山: では前期計画の評価委員会の意見はいかがでしたか。

中村: (P148 説明) この計画が始まってから毎年評価は出しています。それを統括してこの計画に反映させるために一度中間の検討をしようということでもかなり細かく膨大な資料で検討いたしました。

小笠原: それは反映されていますか。

中村: はい、反映することにより重点化する事業を抽出いたしました。

いとう: いろんな事業を展開していただいているなーと見ているのですが、より使い易いというか、広く告知をどのようにしていくかというのがこれからの課題になっていくのではないかと思うのですが。その辺りはいかがでしょうか。

中村: 今後の予定ですが、審議会が終わってから計画書を印刷して3月中には関係のある方に配布し、それと同時にホームページ上にも掲載を考えております。また、概要版なども作成して配布することも考えております。また、近日中にはお時間をいただき、市民のみなさまへの公表までに、議会・民生文教常任委員会への計画策定のご報告を行なう予定です。それぞれの課のほうで事業については事前に話しています。

いとう: 例えば母子手帳をもらいに来られた方とかにもお渡ししたり、新しく転入してこられた方にも芦屋市はこんなことをしていますよと、渡していただけると良いですね。

中村: 概要版はつくります。

白石会長: 他にご意見はありませんか。

亀山: 多岐に渡っての支援がここに載っていますが、芦屋市の教育の話がでしたが、芦屋市もずっとまえから「生きる力」ということを上げてきていますね。生きる力というのはさきほど言われた、食べること・眠ること・体力をつくること・学力を育てることが含まれると思います。それに対してこの施策をみると行政の方から非常にきめ細かに一方的に提供されていますが、地域と行政と家庭のバランスを考えてみると提供される支援が多いですが家庭から返ってくるのは、何が返ってくるのでしょうか。支援を受けている親、親を育てるという言葉がありました。その親の立場でその支援をどのように受け止めているのか、また声かけだとか見回りとか地域もそれ相当のエネルギーを出していますが、学校からはどのような形で返ってきているのか、朝晩の通学の安全確保のための見送りなど学校は当たり前だと思っておられるのではないのかなと。ことごとくこの計画の支援の中身を裏返して検証してみると、受ける側の学校や家庭はどのようにうけとめて消化して子どもに還元しているのかというところが見えてこないことが不安だと思います。芦屋教育振興策定計画で言ったことがあるのですが、まだ表にでていない気がします。そういったところの兼ね合いを考えて、もう一度この中身でやっていることの効果はどうか。中身を少し見ただけですが、もっと強いリアクションがあれば、中身が充実していくのではないかと。これは市民の問題ですが。感想です。

白石会長: 学校園と地域との隔たりのようなことがまだまだあります。学校の先生は頑張っておられるのですが。過保護というのか、送り迎えなど、昔はなかったです。極論すればですが。

前回の審議会で出た話で、池に「危険」の立て札はいらぬんですよ。行政が悪いのか住民も反省してないというのか。

渡辺: 最近お会いしたある方が「食べ物の好き嫌いのある人は、人との付き合いにも好き嫌いがあるということがわかった」ということをおっしゃってまして、子どもたちの食育もそういうことをきちっとしておかないと将来に全て影響するんだなとその方のお話を聞いて思いました。この計画を実践していくのに本当にどうしたらいいのかと私たちは考えなくてはいけないことだと思いました。一生懸命このように計画を作っても、うまく働かないと芦屋市のみんなが幸せになれないことなのだと感じました。

白石会長: 絵に描いたもちと言う言葉がありますが、上手に書いてもそれは食べられないのですから。どのように反映していくかです。

加納: 私の正直な気持ちは、これ以上は事業を増やさないとという気持ちです。今ある事業をもっとふくらませて充実させていきたい、それで他の事業との隙間を埋めていける

はずだと、何も新しい事業をしていなくても、今の事業がいっぱいありすぎる。過保護的というのも十分わかりますし、教育論といったらいっぱい言いたいことありますよね。福祉も医療も教育も関係してくることなのですが福祉だけに焦点を合わせるとそれぞれ自立ということが大きな目標だと思います。それを考えると受け皿ばかりたくさんつくっても自立に繋がっていかない、芦屋市はよそに比べたら環境も良いし、福祉のやりやすい規模ですので、やはり芦屋市しかできない支援を考えていくべき。

白石会長：一言でいったらね、「生活力向上」でいいのですよ。国も地方もいっぱい作りすぎですわ。私もいろんなところで関わっているので反省していますが。

岡本：福祉の課長はかわいそうですね。毎年複数の計画作っている。計画ばかり作って事業なんてできないですね。私の方は、この計画を各界各層のご意見を集約してその達成に向けて一生懸命に取り組んで行きたいそれだけです。

白石会長：文明はどんどん伸びますが、人間の能力は横ばいですからね。乖離するばかりです。そこに不幸があると思います。難しい課題ですね。介護関係もところどころ変わります。

岡本：かわいそうに思いますね。ただ、芦屋の子どもは恵まれすぎていて転ぶ前に支えられているから「ひ弱い」ですね。余命年数も減ってくると思います。多田先生がおっしゃっていたように、子どもの背骨が曲がっていると、80歳も90歳も生きないですよ。文明が進むと人間は弱くなりますから。

白石会長：文明は加速度的にどんどん進んでいきますが、人間の文化能力は横ばい。乖離するばかりでそこに不幸があると思います。やはり、原点に立ち戻ることが大切です。人間はアナログですから。自然に生きることが大事なのです。もうご意見がなければこれで閉会にしますがどうですか。

中村：今日のご意見をまとめまして、近日中にはお時間をいただき、市民のみなさまへの公表までに、議会・民生文教常任委員会への計画策定のご報告を行なう予定です。どうも、ありがとうございました。